



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2021 July to September, vol. 211



天珠師利問菩薩 經 卷之四 諸菩薩
此菩薩摩訶薩 摩訶薩 摩訶薩
初得道在摩訶陀
國 伽耶山 柯與 比丘衆千人 俱其
心志 莫不 歸 阿羅漢 所作已
辦 心得自在 逮得已利 盡諸有結 正
智解 菩薩 方便 從十方世界 來集
有大威儀 自得 是諸陀羅尼 諸深
三昧 具說 神通 天珠 師利 菩薩 觀世
音 菩薩 大勢 菩薩 有 菩薩 摩訶 薩
菩薩 隨 智 行 菩薩 摩訶 薩 如是 等
菩薩 天衆 自 十 萬 其 數 無 量 并 諸
天 衆 不 可 訶 問 而 修 羅 迦 樓 羅 緊
那 摩 睺 脂 羅 伽 人 非 人 等 天 衆 圍 繞
摩 訶 薩 摩 訶 薩 摩 訶 薩 摩 訶 薩

京都国立博物館
だより

二〇二一年
七・八・九月号



特別企画

オリュンピア×ニッポン・ビンユツ

特別展

京の国宝

―守り伝える日本のたから―

予告 特別展

畠山記念館の名品

―能楽から茶の湯、そして琳派―

【特別企画】

オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)
【平成知新館2F、1F】



抜けるような青空の下、オリブの葉がエーゲ海の潮風にゆれる。そんな風景を思い浮かべてください。時は紀元前五世紀。神々のなかの神ゼウスを祀るオリュンピアをめざし、いざ旅にかけましょう。ゼウスは旅人の守護神でもあります。我々が見物する競技大会の開催時期は、戦争中の国々でさえ一時停戦する決まりですから、道中は安全です。ギリシア全土から押し寄せる観客を目当てに、商人や芸能者も集います。四年に一度の大祭典を思う存分楽しめましょう。とはいえ、それは想像の話。実際には京都国立博物館においでください。ご覧いただくのは当館のコレクション。本展は、多神教を奉じた古代ギリシア世界と日本の信仰風習とを対比させながら、当館収蔵の名品を味わい、古代オリュンピックに親しもうという企画です。

【門前のにぎわい】「奉納競技」などの章で、日本の神々にまつわる風習や神事に注目します。ギリシア神話でも日本神話でも、擬人化された神々が活躍します。しかし、ギリシアの神々が詩人たちによってうたわれるなかで、さまざまに変身したように、日本の神々もいつも同じ姿であつたわけではなく、必ずしも人の姿をしていたわけではありません。動物たちが人格化されたり、神の使いとなつたりすることもよくあります。いにしえの美術品はそのような神々の多様なあり方を伝えます。神々を祀る聖地のにぎわいも活写されます。時代が降ればくだるほど、参詣の娯楽的な要素は強まります。そして、競べ馬、流鏝馬、相撲、蹴鞠、鷹狩りのほか、詩の腕前を競う歌合せなど、古代オリュンピックと同様に日本の神前でも各種の競技が繰り広げられました。

【展覧会後半では、「鍛錬」「古代オリュンピックの初日から」「武装競走・近代競技」と題し、ゼウスに捧げられた五日間にわたる行事を追いながら、近代オリュンピックにも少しだけ触れておきます。さらに「勝者の肖像」では、オリュンピア祭典競技の優勝者に関する慣習をとりあげつつ、日本美術における肖像表現を見渡します。最後は盛大な「祝宴」で勝者を祝福しましょう。突拍子もない切り口のように見えて、目の前の迫力ある美術品のなかに人間の普遍的な営みを見いだせる、そのような展覧会をめざしています。時空を飛び超え、柔らかな頭と豊かな心に、喜びを届ける旅となれば幸いです。

(永島明子)



女神坐像 滋賀・日牟禮八幡宮



重要文化財 果蔬涅槃図 伊藤若冲筆 京都国立博物館



愛染明王坐像 京都国立博物館



重要文化財 黙庵周論像 自賛 京都国立博物館



紫系威鎖 伝島津斉彬所用 京都国立博物館

平成知新館 名品ギャラリー

3F-1 陶磁

【日本と東洋のやきもの】

6月5日(土)～7月4日(日)

3F-2 考古

【特別公開 四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産「辰砂と鉄」】

6月5日(土)～7月4日(日)

2F

【特別企画】

オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)

1F-1 彫刻

【特別企画】

オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)

【日本の彫刻】

6月5日(土)～7月4日(日)

1F-2 6

【特別企画】

オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)

※7月6日～12月26日まで名品ギャラリーは休止

【特別展】

京の国宝

— 守り伝える日本のたから —

7月24日(土)～9月12日(日)
〔平成知新館〕

前期展示：7月24日(土)～8月22日(日)
後期展示：8月24日(火)～9月12日(日)
※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替を行います。



この夏、当館は文化庁と共同し、京都ゆかりの国宝を一堂に集めた特別展を開催いたします。本展は当初、昨年(令和二年四月二十八日～六月二十一日)に文化庁主催のもとで京都市京セラ美術館において実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。しかしこのたび改めて会場を当館に移し、展覧会名はそのままに内容を大きく拡大し、新たな形でご覧いただけます。会場では京都の人や文化に関わる数多の名高い国宝、皇室の至宝の数々を展覧しながら、文化財のもつ不滅の魅力とその意義、またそうした貴重な品々を守り伝えてきた我が国の文化財保護のあゆみをご紹介します。

(森 道彦)

第一章 京都—文化財の都市

本展へのいざないとなる本章では、文化財保護の歴史と、京都に伝わる宝物の保護のあゆみを取り上げます。千年以上にわたり都であり続け、由緒ある品々が多数伝わる京都は、古来、奈良と並んで文化財に携わる関係者の最大の注目を集めてきました。京都の人々の間に培われた古い品々を守らんとする気運は、近代において文化財保護制度の確立に多大な影響を与えます。京都は長らく文化財保護行政の先進地であり、本展の会場である京都国立博物館もその重要な一翼を担ってきました。会場では当時を物語る資料や、先人たちが守らんとした日本の歴史と文化を代表する国宝の数々を前に、貴重な文化財を伝えてきた私たちの道のりをたどりませう。

第二章 京の国宝

続く本章では、絵画、書跡・典籍・古文書、考古資料・歴史資料、彫刻、工芸品の分野ごとに、京都の土地や人ゆかりの国宝の数々をご覧いただきます。日本に伝わるいしえの品々のうち、特に重要なものを「重要文化財」、「国宝」に指定し、国を挙げて保護する現行の制度は、昭和二十五年(一九五〇)に制定された「文化財保護法」に始まり、重文や国宝は今や私たちにすっかり耳なじみの言葉となり、今日までの約七十年間に国指定となった美術工芸品は一〇八〇八件(うち国宝八九七件)、そしてそのうち約一九〇〇件(うち国宝、一八五件)、六分の一以上が京都府内に所蔵されているのです。さらに長く京都に伝来しながらも後世に他の地域にもたらされた品々、京都ゆかりの人々が各地に残した品々も無数にあり、日本の文化財にとって京都は大いなるゆりかごの地と言えます。

第三章 皇室の至宝

さらに文化財を守り伝えるにあたって行政と共に大きな役割を果たしてきたのが、古来、京都にゆかり深い皇室です。明治維新に伴って古の宝物の多くが危機にさらされる中、東海や近畿を中心にあった皇室ゆかりの施設やその収蔵品は、再び古の文化に人々の目を向かわせる契機をつくりました。皇室は古来の重要な伝世品を保管しつつ、多くの国宝の献上も新たに受け入れ、時に社寺に援助を与えるなどして、日本の歴史と文化の守護者として活動します。本章では、こうした皇室ゆかりの至宝を特に厳選してご紹介します。

第四章 今日文化財保護

文化財保護には、多くの課題があります。まずどこに、何があるのか。それは学術的にいかなるもので、私たちの社会にとってどのような価値を持つのか。貴重な品々の所在や状態をいかに把握し、災厄から守ればよいのか。保存状態が悪化した場合、どのように修理を加えるかなど、多くの議論と事業が私たちの文化財を支えています。脆く失われやすいものの価値を守り、社会の中で生かしつつ、確実に将来に受け継ぐためには、永く地道な活動が不可欠です。最終の本章では、京都を中心としつつさらに全国にも目を向け、文化財保護に欠かせない様々な取り組みについてご紹介します。



国宝 太刀 銘久国 文化庁(通期展示)



皇室の至宝 玉泉帖(部分) 小野道風筆 宮内庁三の丸尚蔵館(後期展示)



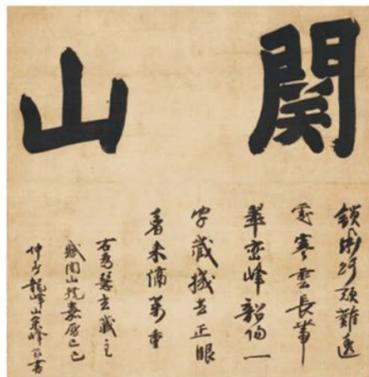
皇室の至宝 春日権現験記絵 巻二(部分) 絵：高隠隆兼筆 詞書：廣司基忠ほか筆 宮内庁三の丸尚蔵館(通期展示<巻二：前期展示、巻七：後期展示>)



国宝 花鳥図横 狩野永徳筆 京都・聚光院(後期展示)



国宝 御堂関白記 自筆本 寛弘元年上巻(部分) 京都・陽明文庫(通期展示<寛弘元年上巻：前期展示、寛弘八年上巻：後期展示>)



国宝 宗峰妙超墨蹟「関山」道号 京都・妙心寺(前期展示)



国宝 松に秋草図屏風 長谷川等伯筆 京都・智積院(前期展示)



国宝 山科西野山古墓出土品 金装太刀 京都大学総合博物館(通期展示)



国宝 宝相華蒔絵宝珠箱 京都・仁和寺(前期展示)



国宝 雲中供養菩薩像 北十六号 京都・平等院(通期展示)

予告【特別展】

畠山記念館の名品

—能楽から茶の湯をして琳派—

10月9日(土)～12月5日(日)

【平成知新館】

前期展示：10月9日(土)～11月7日(日)

後期展示：11月9日(火)～12月5日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替えを行います。

畠山記念館は、昭和三十九年（一九六四）、株式会社荏原製作所の創業者である畠山一清（一八八一～一九七二）によって東京・白金台の閑静な地に開館しました。事業のかたわら、即翁と号して能楽と茶の湯を嗜む数寄者でもあった彼は、長年にわたり熱心に美術品の蒐集に努めました。そのコレクションは、茶道具を中心とする日本、中国、朝鮮の古美術品で、国宝六件、重要文化財三十三件を含む約一三〇〇件にも及びます。

即翁の蒐集品には、「即翁與衆愛玩」との愛蔵印があります。この言葉には、自らの蒐集品を独占するのではなく、多くの人と共に楽しもうとする即翁の意思を読み取ることができます。

本展覧会は、施設改築工事のため休館している畠山記念館の「與衆愛玩」という即翁の理想を分かち合うために、関西の地において初めて開催される展覧会です。即翁の審美眼と美意識に触れ、彼が愛した茶の湯をはじめとした日本文化を末永く伝えていきたいという思いを共有する機会となれば幸いです。

（降矢哲男）



重要文化財 井戸茶碗 銘 細川
畠山記念館（通期展示）



国宝 煙寺晚鐘図 伝牧谿筆 畠山記念館（後期展示）



雲に雪持椿文様唐織 畠山記念館（後期展示）



重要美術品 四季花木図屏風（左隻） 渡辺始興筆 畠山記念館（前期展示）

【ミュージアムパートナー一覧】

※2021年6月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】

三州ヘイন্ত株式会社

土屋 和之

株式会社SOFOMNZホールディングス

株式会社 俄

NISSHA株式会社

【シルバー】

有限会社 竹内美術店

学校法人 二本松学院

【キャンパスメンバース一覧】

※2021年6月末現在

会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様に、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。詳細はウェブサイトをご確認ください。

学校法人 瓜生山学園

国立大学法人 大阪大学

大阪大谷大学 / 大谷大学 / 大手前大学

学校法人 関西大学

学校法人 関西学院 / 京都大学

学校法人 京都外国語大学

京都工芸繊維大学

学校法人 京都産業大学

学校法人 京都女子学園

京都市立芸術大学 / 京都精華大学

京都橘大学 / 京都府立大学 / 近畿大学

国立大学法人 滋賀大学

四天王寺大学 / 就実大学 / 成安造形大学

学校法人 大覚寺学園 / 帝塚山大学

学校法人 同志社 / 奈良大学

奈良女子大学

奈良先端科学技術大学院大学

学校法人 二本松学院 / 花園大学

佛敎大学 / 学校法人 立命館 / 龍谷大学

なんでも、「二度あることは三度ある」という言い回しには、「だから同じ失敗を繰り返さないように注意せよ」という含みもあるらしい。とはいえ、この世には用心していても、どうにもならないことがある。

最初は、かれこれ二十四年前、京都国立博物館へ赴任してまだ三年目のこと。当時、工芸室専任の陶磁担当研究員だった筆者は、現在平成知新館と呼んでいる建物の設計に資すべく、なりゆきで難波考古室長（当時）と共に博物館構内を試掘調査することになった。館の敷地は、豊臣秀吉が創建した方広寺の旧境内にあたっていて、その関連遺構がどこまで残っているのかを確認する必要があったからである。

既存建物の周囲に複数の試掘坑を設定し掘り下げてみると、南側の調査区で一メートルほどの巨石がみつきり、出土位置から国が史跡に指定している方広寺の石垣の南面延長部分に相当するようにも思われた。そこで、京都市埋蔵文化財研究所に委託して本格調査を行ったところ、延々五十メートル以上にわたって石垣基底部が残っていた上に、秀頼再建期の南門や回廊の礎石据付痕跡まで確認されたのである。

史跡とは、遺跡の重要文化財とも言うべき存在だ。文化財保護の拠点たるべき博物館を、明らかな史跡の延長部分を壊して建てたのではサマにならない。かくして、平成知新館はその設計変更を余儀なくされた。

二度目は七年前。人事異動で奈良文化財研究所へ転任したその年に、研究所の新庁舎建設予定地の発掘調査を担当した。七月に前任者から現場を引き継いだ際、既に大規模な土木工事の痕跡の片鱗が見えていて、嫌な予感を感じていたのだが、調査を通して明らかになったのは、秋篠川の流路を利用した運河の存在である。現在の秋篠川は旧平城京

域を北から南へほぼまっすぐに流下しているが、元々はかなり蛇行していた、その河道を利用して平城宮造営時に資材を運び込み、運河の必要がなくなると南北方向の人工流路に付け替えていたのである。

都を造営するためには、河川の流れまで変えてしまうという国家による大土木工事の記念碑的な遺跡である。それを壊して研究所の庁舎を建設したのでは…、かくして奈良文化財研究所の新庁舎もまた、設計変更と相成った。

三度目はこの一年。六年ぶりに戻ってきた博物館では、本館（明治古都館）の改修・免震化工事に備えて発掘調査をしていて、本館北東の調査区で妙な柄穴のある礎石が二つ掘り出されていた。気になり何度か発掘現場を覗いている中で、秀吉創建期の築地塀の寄柱礎石ではないかという意見を聞かされた。確かに、秀吉の方広寺創建からさほど隔たらない時期に大々的に修理された教王護国寺（東寺）の築地塀のそれと酷似しており、塀？に沿って掘られた溝の出土土器も、自分で実測してみても桃山時代のものと確認できた。

どうやら、今まで残っていないかと思われていた秀吉創建時の築地塀跡とみて間違いなさそうだ。秀頼再建期の回廊跡を保存したのに、秀吉創建期の築地塀跡を残さないわけにはいかないだろう。これでも考古学徒のはしくれだから、凄惨な遺跡を目にすることができたことは嬉しくもある。しかし、転勤の度に建物工事に関わって保存すべき遺跡が発見され、その対応に追われているのは、運がいいのか悪いのか。

あれこれ思うことはあるけれども、ともかくなすべきことをするしかない。なぜなら、文化財の保護こそは国立文化財機構が掲げるべき根本の大義なのだから。



秀吉創建期の築地塀寄柱礎石

【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っております。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

講座・イベント

【記念講演会】

- ① 7月24日(土)「彫刻修理の歴史と現状」
文化庁文化財第一課 主任文化財調査官 奥 健夫
- ② 7月31日(土)「国宝・重要文化財の指定—書跡・典籍、古文書を中心に—」
文化庁文化財第一課 主任文化財調査官 藤田 励夫
- ③ 8月 7日(土)「京の国宝—日本の文化財保護のあゆみと京都—」
京都国立博物館研究員 森 道彦
- ④ 8月21日(土)「京の国宝—流転する工芸—」
京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦
- ⑤ 8月28日(土)「京の国宝—絵画の美と評価の歴史—」
京都国立博物館研究員 井並林太郎
- ⑥ 9月 4日(土)「今日の文化財保存技術—装演修理、特に紙を中心に—」
文化庁文化財第一課 文化財調査官 地主智彦

【時間】13時30分～15時 【会場】平成知新館 講堂

【定員】各100名 ※抽選による座席指定制。

【料金】聴講無料(ただし、講演会当日の本展覧会観覧券が必要)

【応募方法】はがきかファクス(06-6366-2370)に、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と同伴者(1名まで)の氏名、年齢、参加希望日を書いて「〒530-8551(住所不要)読売新聞大阪本社文化事業部「京の国宝」講演会係」へご応募ください。
展覧会公式サイト(<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/miyako2021/events.html>)からもお申し込みいただけます。

※はがき1枚につき1講演会のお申し込みとなります。①、②は6月30日(水)必着、③、④、⑤は7月9日(金)必着、⑥は8月10日(火)必着です。応募多数の場合は抽選となります。当選された方には、①、②は7月10日(土)、③、④、⑤は7月20日(火)、⑥は8月20日(金)までに参加証をお送りします。

※講演会に参加される方は、日時指定券は不要です。聴講の際は、南門チケット売場にて参加証をご提示いただき、当日観覧券をご購入の上、開始時間前までにご入館ください。
※熱で消せるボールペン(フリクションボールペン等)は使用しないでください。
※お預かりした個人情報、本展覧会講演会の連絡のみに使用します。

【お問い合わせ】読売新聞大阪本社文化事業部

お電話：06-6366-1848(平日午前10時～午後5時)

【京都・らくご博物館【夏】～納涼寄席～ vol.60】

日 時：7月16日(金) 18時開演(17時30分開場)

会 場：平成知新館 講堂

出 演：桂慶治朗 桂小鯛 桂宗助 <中入り> 桂米紫 桂雀三郎

入場料：3200円(キャンパスメンバーズの学生は学生証提示により2600円)

※全席指定、庭園無料観覧券付

※チケットご希望の方はお電話、またはウェブサイトよりお申し込みください。

お電話/博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付 ※祝日は除く)
ウェブサイト/<https://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【夏】申し込み画面

これからの展覧会

◆特別展 畠山記念館の名品—能楽から茶の湯、そして琳派—
10月9日(土)～12月5日(日)

◆特集展示 新取品展
2022年1月2日(日)～2月6日(日)

◆新春特集展示 寅づくし—干支を愛でる—
2022年1月2日(日)～2月13日(日)

◆特集展示 後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳—
2022年1月2日(日)～2月13日(日)

新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませよう願います。

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：7月6日(火)～7月22日(木・祝)
9月14日(火)～10月7日(木)

※名品ギャラリー休止期間中は庭園のみの開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<6月5日～7月22日> 9:30～17:00
<7月24日～9月12日> 9:00～17:30
<9月14日～10月7日> 9:30～17:00

※入館は各開館の30分前まで ※夜間開館は実施しません

【観覧料】【名品ギャラリー】<6月5日～7月4日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。
*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】<7月6日～7月22日>
<9月14日～10月7日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。
*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。
*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子が付きます。

【特別展「京の国宝」】<7月24日～9月12日>

*本展は事前予約<優先制>です。ご来館前に日時指定観覧券をご購入くださいようお願い申し上げます。

一般1600円、大学生1200円、高校生700円

*中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。
*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります(当日南門チケット売場のみの販売、なくなり次第終了)。
*団体券はありません。
*詳細は展覧会公式サイト(<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/miyako2021/>)をご覧ください。
*特別展期間中、名品ギャラリー(平常展示)は休止となります。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館)、翌火曜日休館
7月23日(金・祝)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD1のりばより100号系統、D2のりばより206・208号系統、にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2021年7月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

